

## 令和4年度第1回松戸市公共施設再編整備推進審議会 議事要旨

日時：令和4年6月27日（月）14：00～15：30

場所：オンライン会議

出席者：柳澤 要委員（会長）、藤村 龍至委員（副会長）、池澤 龍三委員、  
村山 顕人委員、小川 早苗委員、渋谷 寛之委員

事務局：伊東 朱美（総合政策部長）、谷口 武（総合政策部参事）、  
弓木田 誠（公共施設再編課長）、青柳 英生（公共施設再編課専門監）  
柳原 宏昭（公共施設再編課主査）、本田 和也（公共施設再編課主査）

### ○議事

- 1 松戸市公共施設再編整備基本計画の進捗管理等について
- 2 松戸市公共施設等総合管理計画の改訂について
- 3 その他について

- 1 松戸市公共施設再編整備基本計画の進捗管理等について

事務局より、「資料 1-1：松戸市公共施設個別施設計画《概要版》」、「資料 1-2：松戸市公共施設個別施設計画」について説明を行った。

### <主な意見>

- 新拠点ゾーンなどの個別施設計画に位置づけられている取組について、事業内容はこれから議論されていくということか。
- 市として取組内容の方向性を示しているので、具体的な機能や規模については、今後所管課を中心に精査の上、示していく。
- 個別施設計画は国より施設類型別に作成するよう指針が示されているが、本来はマネジメントとしてやらなければならないことは、縦割りではなくて横串を通して施設のあり方を議論していくということだと思う。
- 個別施設計画においては複数の所管課の調整が必要となる複合施設については資産マネジメント推進部門が調整することになっているが、企画段階の全体的な方針を調整することが必要。資産マネジメント推進部門がイニシアティブを取って進めていくなどの仕組みを考えた方が良い。
- 公共施設カルテ・施設評価の地域別のデータは個別施設をソートするだけでなく、地域ごとに偏っている施設や老朽化している施設など再編に向けてデータ整理すると効果的になる。

- 2 松戸市公共施設等総合管理計画の改訂について

事務局より、「資料 2：松戸市公共施設等総合管理計画の改訂について」について説明を行った。

<主な意見>

- 再編整備の全体をマネジメントする立場から見た時に進捗状況をどのように評価するのか。事実として動いている事業を評価し計画に反映させるだけでなく、地域ごとに見ていった場合や当初計画で想定していたようなタイムスケジュールで物事が動いているのか等、俯瞰的に評価して計画内容を改訂していく作業が必要だと思う。
  - どの自治体でもそうかもしれないが、教育施設の面積が一番多いので、その再編整備をすることが公共施設の量を減らすという意味で大事だということがある一方で、小中学校の統廃合というのは難しいと思う。例として教育施設を出したが、計画で記載したように減らしていくことが現実的なのか等の評価を行い、必要に応じてその計画の軌道修正も必要ではないかと思う。
  - 学校施設の適正規模・適正配置を考える時に、まずは学区の見直しという形になってくると思うが、学校施設と他の公共施設が複合化していくことを考えると、これは同時に考えていかないといけない問題かと思う。学校施設の適正規模・適正配置に関しても資産マネジメント推進部門が教育委員会と連携しながら関わっていくのか。
- 市長部局、教育委員会ととらわれることなく調整機能を果たしていきたい。
- 長寿命化計画を定めているので、長寿命化を推進する趣旨はわかりやすいが、森と木の議論で言えば、森の範囲はある程度決まっているので適正なところで伐採して空地を作らなければ新しい木を植えることは難しくなる。新しい施設を市民ニーズに応えるために整備していくことは現実的に行われるので、いかに総合的な視点で計画的に建物の解体を行い、土地を作ることで初めて適正な配置を次の世代に組み替えることができると思う。
  - 市民は公共の森ばかりで過ごしている訳ではなく、民間の施設を含めた大きな森の中で生活している。公共の森だけ整理整頓するみたいな話に終止しない視点が職員には求められている。
  - これまでのハコモノを作ったらソフトが付いてくるみたいな発想ではなく、新しい世代と共にソフトを作り上げ、行政サービスそのものを新しく組み替えていくという発想、意気込みを持って進んでいってはどうか。
  - 建物を延命させることだけでなく、行政サービス自身がどうあるべきかという議論を行えば、今までの建物でなくても良いとか他の施設と複合化できる等、ソフトとハードを切り離して議論することも必要になると感じる。
  - 平成 29 年の「公共施設等改革による経済・財政効果について（内閣府）」において、ソフト的に解決できることはソフト化するといった脱ハコモノみたいなことが示された。松戸市においては、それを更新時期の時点で見直しをしていくということだと思うが、その観点だと長寿命化が急所になると考える。
  - 長寿命化することで機能に対応していないハードが残ることが懸念される。全体の費用は延床面積によるので、例えば地域の核となる学校の数は減らさないが、余剰教室や

教室の使用状況を見て、適切に面積の見直しを行う。また延床面積を適正化するために更新時期だけでなく、場合によっては大規模改修の時期に更新することで長期的にコストを下げていくことも検討しなければならない。20年長寿命化したことによりサービスの低下に加えて、ハコモノの維持管理費も上がってしまうことも考えられるため、長寿命化の投資判断は少し慎重になる必要がある。

- 今後突入していく更新時期には長期的に見て延床面積を減らす一方で、地域コミュニティの核は維持し、行政サービスは向上するという状態をどう実現させるのかということ議論の基調にしたいと思う。
- 例えば学校ではプールが1校に1個必要なのか。市民プールを活用することも考えられる。図書室は地域図書館との集約化することも考えられる。色々な行政サービスをうまく建物を再編しながらシェアすることでトータルとして延床面積を減らしていく考えもある。その際はセクション別の調整が必要となるので、縦割りを排除していかないと進みにくいと思う。
- 施設の評価で、例えば市民センターだと稼働率等が評価する一つの指標となっているが、地域の人達がどう使いたいのか等の将来的なコミュニティ作りについて、ソフト面を考える上では大切になると思う。

### 3 その他について

#### (1) 小金原地域懇談会開催結果について

事務局より「資料3：小金原地域懇談会開催結果」について説明を行った。  
渋谷委員より小金原地域における今後の展開について補足説明した。

#### <主な意見>

- 縦割りでない複合化やハードとソフトを別に考える、官民連携等の新しいタイプの公共施設再編のモデルになるとおもしろいと思う。今後新しい施設整備をする上でパイロット事業となるかもしれないと思う。
- コミュニティに対する機能を維持しつつ、公共施設再編のモデルを検討する時に、市民センターが重要な位置を占めるだろうという事が議論としてあったと思う。どうしても学校の再配置が関心として高いが建物も大きく、合意形成するには時間がかかる。
- 現在の市民センターは建築的な視点で言うと、入口が道路側を向いているが、商店街との繋がりを強化して1階ロビーの使い方を変える等、多機能化するアイデアは色々あると思う。複合施設のあり方を見直しながら、最終的には管理運営も今までと違った形の参加型でやっていく等、色々可能性が詰まった施設である。

#### (2) 今年度スケジュールについて

事務局より「資料4：今年度スケジュール」について説明を行った。

<主な意見>

- 第 2 回審議会までに間が空いてしまうので、説明のあった総合管理計画の改訂の方向性について委員と共有した上で、個別の意見を取り纏めてもらえれば、次の審議会が実りのあるものになると思う。

(以上)